

第43回岡山戦災の記録と写真展

— 戦後75年

資料と記憶の保存と継承 —



2020

第43回岡山戦災の記録と写真展

— 戦後75年 資料と記憶の保存と継承 —

会期 令和2年6月9日(火)～7月5日(日)
会場 岡山シティミュージアム4階展示室・5階岡山空襲展示室
主催 岡山市
共催 岡山市教育委員会
後援 岡山県教育委員会
展示協力 岡山市立中央図書館
関連行事 岡山空襲展示室学芸員による展示解説 会期中の土・日の午後2時から

以下の行事については開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止した。

記念シンポジウム

日時 令和2年7月4日(土) 午後1時～4時
会場 岡山シティミュージアム 4階講義室 定員80名(先着順)

- 演題 「私の体験した岡山空襲」(仮題)
講師 赤兎 正年 さん 岡山空襲体験者
- 演題 「文献史学から見た戦災資料」
講師 長 志珠絵 さん 神戸大学国際文化学研究所 教授
- 演題 「米軍資料研究の歩みと今後の課題」
講師 工藤 洋三 さん
空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 事務局長

目次

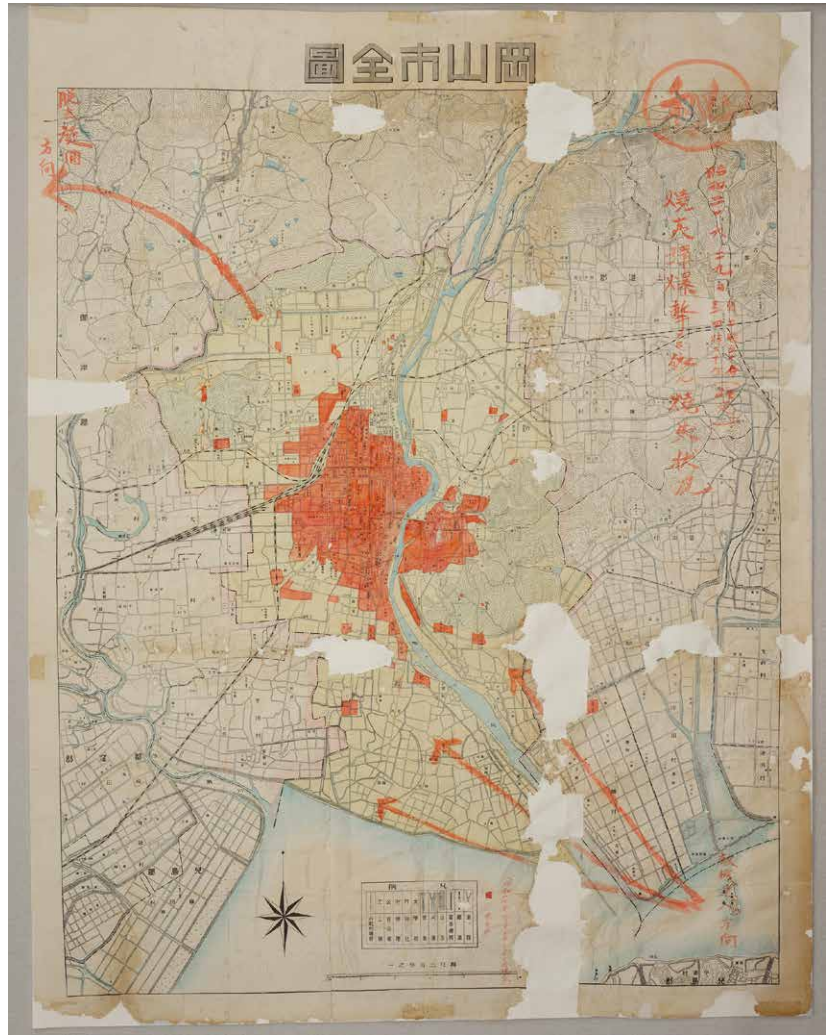
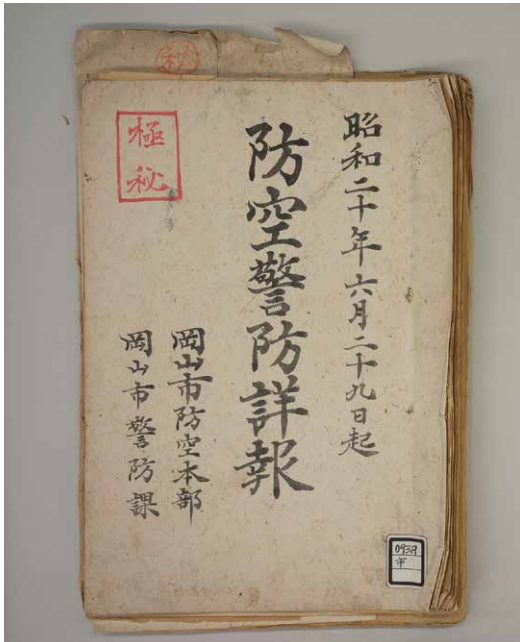
1. 岡山空襲直後からの記録	3 p
2. 写真家たちの記録	5 p
3. 日本本土空襲	14 p
岡山県下初空襲と成都の B-29 部隊 工藤 洋三 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 事務局長	19 p
4. 岡山市民の防空	25 p
5. 出征していく兵士達	26 p
6. 翼賛体制下の生活	28 p
7. 戦時下の子どもたち	32 p
column 文献史学から見た戦争資料 長 志珠絵 神戸大学国際文化学研究所 教授	35 p
8. 1946 年（昭和 21）2 月 中田政夫が見た岡山	36 p
9. 終戦へ	40 p
10. 戦後の生活と平和への祈り	42 p
11. 資料と記憶の保存と継承	44 p
米軍資料研究の歩みと今後の課題 工藤 洋三 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 事務局長	48 p
岡山市における昭和 21～22 年の戦災史編纂調査について 飯島 章仁 岡山シティミュージアム館長補佐	54 p
出展資料目録	60 p

- ・本書は岡山市が令和 2 年 6 月 9 日（火）～7 月 5 日（日）に開催する「第 43 回岡山戦災の記録と写真展 - 戦後 75 年 資料と記憶の保存と継承 - 」の解説冊子である。
- ・会場の展示番号と本書の図版番号は共通するが、会場での陳列順序は必ずしも番号通りではない。また、図版の掲載順序は図版番号と基本的に一致させたが、レイアウトの都合上、配列を変更したり、掲載していないものもある。
- ・掲載資料本文中にある敬称を除き、所蔵者・協力者等について、敬称は省略した。
- ・掲載・出展資料の翻刻については、本来の文体を損なわないよう努め、原則として、旧字体や旧仮名づかいを新字体及び現代仮名づかいに改め、一部の古い慣用的な漢字を仮名表記に改めた。
- ・掲載資料のうち、「大原美術館日誌」については、公益財団法人大原美術館 学芸課長 吉川あゆみの翻刻を基に編集した。
- ・本書の編集は猪原千恵（岡山市保健福祉局保健福祉部福祉援護課 岡山空襲展示室）が担当し、岡山空襲展示室の木村崇史・脇坂省吾がこれを補佐した。また「岡山県下初空襲と成都の B-29 部隊」「米軍資料研究の歩みと今後の課題」については工藤洋三が、「column 文献史学から見た戦争関連資料」については長志珠絵が、「岡山市における昭和 21～22 年の戦災史編纂調査について」は飯島章仁がそれぞれ執筆した。
- ・本書に掲載した米軍資料のうち、兵器類については山本達也（四日市市教育委員会）が監修した。
- ・所蔵者名は公共の機関・団体については明記し、個人の場合は一部を除き個人所蔵と表記した。特に記載のない資料については全て岡山空襲展示室の所蔵である。
- ・提供者名を明記していない画像データについては木村崇史・行吉正一・脇坂省吾・猪原千恵（以上、岡山空襲展示室）が撮影した。また、本書の表紙は堀真代美（岡山シティミュージアム）がデザインした。

1 岡山空襲直後からの記録

1945年（昭和20）6月29日、午前2時43分から4時7分にかけて米軍が約10万発の焼夷弾を投下した岡山市街地は壊滅的な被害を受け、約2,000名の市民が亡くなりました。消防組織による消火も不可能となるよう計算された大型の焼夷弾と小型の焼夷弾の組み合わせにより、市内は大火に包まれ、人も建物も焼かれました。

空襲後の岡山市街地の様子について、多くの体験者の方が、「岡山駅から旭川の向こうの山まで、ビルが幾つか残っている他には本当に何もなかった。」と語られます。しかし、生き残った人々は傷ついた人々を助け、焼け跡を復興するために動き始めました。そしてその状況は記録に残され、後にこの戦災を後世に伝えなければと考えた人々によって保存されることとなりました。

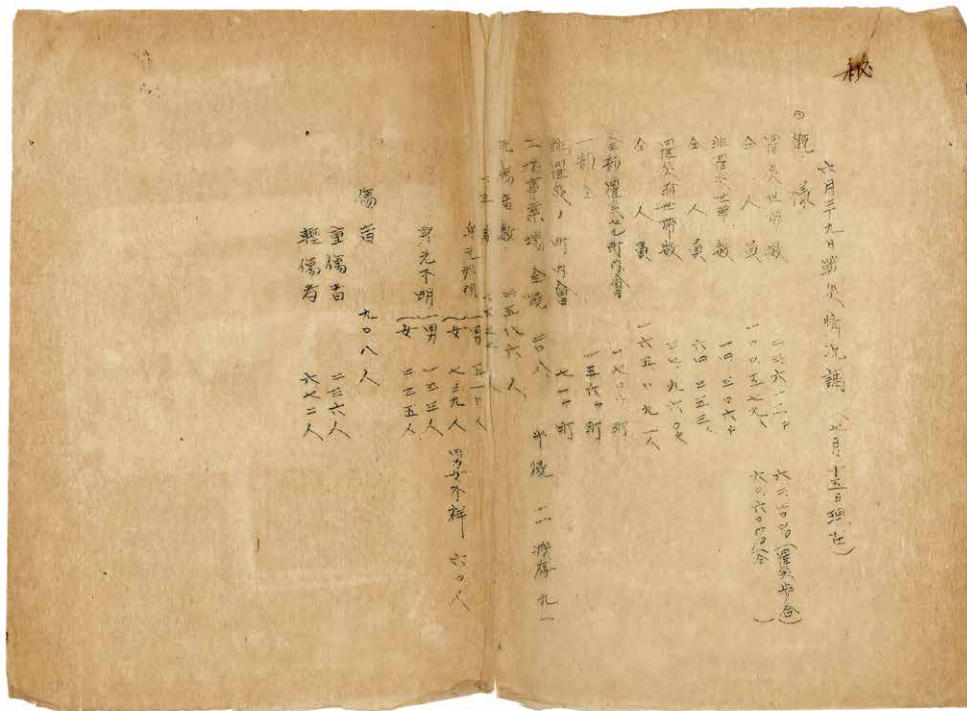


左 1 『防空警防詳報』 岡山市防空本部・岡山市警防課作成 1945年（昭和20）

右 2 ㊟焼夷弾爆撃二依ル焼失状況図 1945年（昭和20）6月29日以降 岡山市立中央図書館所蔵・画像データ提供

岡山空襲により岡山市役所は焼失しました。この記録は岡山市防空本部と警防課の名で作成されています。空襲中の様子も記され、岡山空襲後、6月29日午前7時20分に弘西小学校校舎を臨時市役所として開設し、罹災者や死体の収容について協議している様子が記されており、またその後は終戦の日まで空襲警報の発令・解除が記録されています。

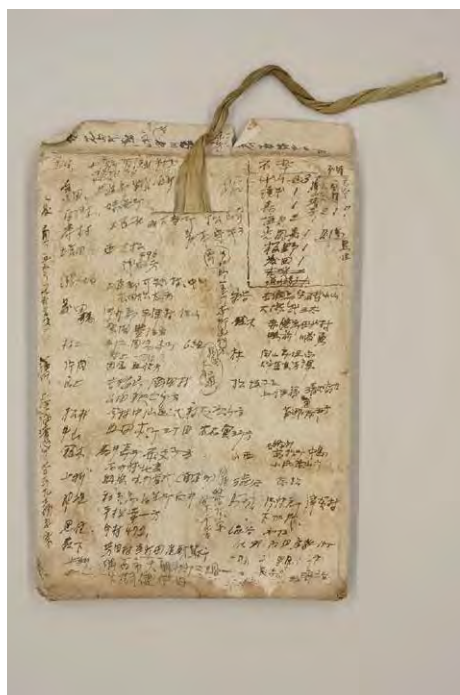
この簿冊に挟まれていたのが㊟焼夷弾爆撃二依ル焼失状況図でした。「6月29日午前10時現在」と書き込まれ、空襲による焼失範囲が赤く塗られています。何度も繰り返し使われたことにより、ひどくいたんでおり、裏面には約60枚もの紙が貼られて補強されていました。2017年、修復により裏面の紙をはがしたところ、それは当時の書類などを再利用したものであることがわかりました。また、紙の裏面には鉛筆で空襲警報や警戒警報の発令状況が書きつけられており、それは『防空警防詳報』の内容の一部にほぼ一致していました。つまり空襲で市役所が焼けたあと、ありあわせの紙に情報を書きつけ、その内容を『防空警防詳報』に清書した後、また補強に再利用したことになります。記された情報も貴重ですが、その素材そのものが当時の困難な状況を物語っていると言えます。



5 ⑤六月二十九日被災状況調（七月十五日現在）岡山市水道局所蔵

岡山市の上水道は岡山空襲で大きな被害を受け、漏水が酷いために給水不能となっていました。その復旧書類に入っていたものです。

「概様（ママ）」として罹災世帯数 23,612 戸、罹災人員 100,579 人、死傷者数 2,586 人、死者 1,677 人、身元判明男 510 人、女 739 人、身元不明者男 133 人、女 235 人、男女不詳 60 人、傷者 908 人（重傷者 236 人、軽傷者 672 人）となっています。



13 戦時災害救助申請書類 岡山市立中央図書館所蔵・画像データ提供

第 19 代岡山市長をつとめ、岡山空襲の際に細堀町内会長だった横山昊太の旧蔵品です。118 枚の用紙が綴られており、用紙はナンバリングされています。

使用されているインクの色調が異なることから推測すると、岡山空襲の前にまず家族構成が記入され、後に罹災状況（全焼と即死の場合のみ記される。）と疎開先が記入されたようです。即死者が出た世帯は全部で 11 世帯あり、死者は 18 名記入されています。別の資料には、後から追加して 4 名の死者名があり、全部で 22 名亡くなっていますが、「細堀調査内復帰者」には、10 月の項に朱書で井上家の 4 歳の子どもが亡くなったことが書かれており、これを数えて 23 名の方がこの町内で亡くなったとしています。

表紙には表裏ともびつしりと罹災者の疎開先が記入されており、当時の状況が伝わってきます。



11 『昭和二十年皮膚科泌尿器科患者 一三〇一 一四〇〇』
12 『昭和二十年皮膚科泌尿器科患者録 一四〇一 一五〇〇』
いずれも 1945 年（昭和 20）6 月以降 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野所蔵

岡山空襲後、大勢の人が病院へ詰めかけたと言われていています。余裕のない中、この 2 冊はそんな状況でもカルテを作らなければ、と作成されました。